

## 糖尿病の冠動脈疾患に対する治療戦略； 内科の立場から

代田 浩之 順天堂大学医学部循環器内科

糖尿病を合併した冠動脈疾患は、多枝病変、び慢性病変等の特徴に加え、腎障害や自律神経障害の合併もあって、その予後が極めて不良であることが知られている。たとえ血行再建を受けても非糖尿病と比べてその成績は有意に劣ることが示されてきた。近年、冠動脈インターベンションでは薬剤溶出ステントの開発、冠動脈バイパスでは動脈グラフトの多用やOff-pumpバイパスの応用などで糖尿病のリスクを改善する工夫が続けられている。一方、内科治療の観点からは糖尿病のリスクが高血糖自体の催動脈硬化作用に加えて、他のリスクの重積が大きな役割を演じていることから、高血圧、脂質代謝異常や炎症、易血栓形成性など合併する他の病態を総合的に管理することの重要性が報告されている。

本稿では糖尿病を合併した冠動脈疾患の治療戦略について、内科、外科それぞれの立場から、最近のエビデンスに基づいて、エキスパートの先生方に概説していただく。